

翻刻『大坂川魚問屋文書(二)』

天理大学 佐藤 敏江
中之島図書館 日置 将之
中央図書館 小笠原 弘之・北川 敬子・苗村 昌世・
灘井 雅人・三島 美幸・八木 美恵・
山田 瑞穂

はじめに

『大坂川魚文書』の中から、「仲間為申合式目写」、「川魚問屋申合帳」、「市場定」の三点を翻刻する。

(一)仲間為申合式目写

原資料は大坂府立中之島図書館蔵(大和銀/九一三十一)。二十五×十七cm、表・裏表紙各一、本文十四丁。

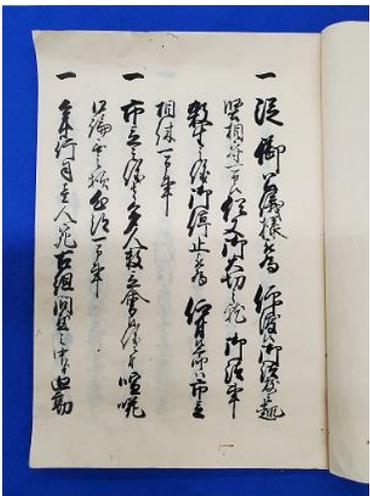


仲間為申合式目写・表紙

慶長元年(一五九六)以来明治に至るまで、大坂城の川魚・沖魚の肴御用と「諸役御免」の特権が与えられていた京橋北詰鮒市場では、問屋仲間五十人を五組に分け交替で肴御用を勤めた。京橋北詰鮒市場では既に規則を「定」として制定していたが、時々的事案については仲間内で相談の上、申合書を作成している。本資料は嘉永六年(一八五三)十二月における仲間内での取り決めを記載した帳面の写し。こうした取り決めが忘却されないよう、毎年三月に集会し印形帳に調印することも記載されている。

(二)「川魚問屋申合帳」

原資料は大坂府立中之島図書館蔵(大和銀/九一三十三)三十三×二十四cm、表・裏表紙各一、本文十七丁(白紙二丁)。



【川魚問屋申合書】

嘉永七年(一八五四)の問屋仲間内の申合書。前年の「仲間為申合式目写」と同様の内容だが、後半には風評被害を防ぐための取り決めなど新たに起こった問題への対応を記した条文が複数追加されている。また、調印部分には貼紙で問屋名の書き換えがなされていることから、本資料が印形帳の原本であることがわかる。

(三)市場定

原資料は大阪府立中之島図書館蔵(大和銀/九一九)二十七×二十一cm、表・裏表紙各一、本文五十七丁(白紙十八丁)。

京橋北詰鮒市場では、寛保元年(一七四一)五月に鯉・鮒・鰻の川魚三品の専売を確認した。その機会に、問屋五軒で制定した問屋仲間の定。本資料は宝暦十一年(一七六一)に組札を改定するにあたり、現行の定書等をまとめたものと思われる。「口上之覚」では、仲間五十人が講の掛銭を月二十文集めること、年二回正月と九月に寄合をすること、三品は漁師から直接買入れたり、他国へ売り捌いたり等問屋五軒の妨げになることはしないことなど仲間間で取り決めについても記載されている。



市場定・表紙



市場定・裏表紙

参考

「大阪府立中之島図書館所蔵 大和銀文庫目録」(大阪府立中之島図書館編 公益信託大和銀文庫基金 二〇〇四年)
 「大阪府漁業史」(大阪府漁業史編さん協議会編 大阪府漁業史編さん協議会 一九九七年)
 「資料大阪水産物流通史」(大阪水産物流通史研究会編著 三一書房 一九七一年) ほか

凡例

- ・原本の忠実な翻刻を原則とし、旧漢字はそのまま表記した。
- ・異体字は標準の字体に改めた。但し(ゝ(より))はそのままとした。
- ・かなの古体・変体は原則として現行の平かなを使用した。但し、江(え)・与(と)・者(は)・茂(も)などの慣用字は、原本のままとし小字で表記した。
- ・反復記号「　」「　」等は原本の通りに表記した。
- ・追筆等は本文中に繰り込み、書き損じ等特にその必要を認めない場合は省略した。
- ・解読不可能の字は□で示し、誤字・脱字・衍字などは原本のまま翻刻し(カ)(ママ)と傍注した。
- ・注記は(注記)「本文」と表記したが、貼紙が複雑になっている場合は、該当の部分を□で囲み次の様に表記した。(貼紙)□

(二)仲間為申合式目写

(表表紙)「嘉永六癸丑極月

仲間為申合式目寫」

- 一 從 御公儀様被為 仰渡候御法度之趣堅相守可申候 尚又御太切之就御法事殺生之儀御停止被為仰付候節者市立相休^也可申事
- 一 市立之儀者多人數立會候義ニ付 喧嘩口論無之様心得可申事
- 一 年行司老人宛古組問屋之内^も廻勤可致 尚又仲間惣代与唱新古無隔一人宛廻勤致 年行司差支之節手代リ可致候事
- 一 仲間急談之節如何様之差支在之候共為繰合致出席可致候 自分御公用掛り或者重病之節ハ代人ニ差出候事
- 一 前日^も日限相定在之候集會不參不相成候 自然不參又者代人差出し 於其席ニ取究候儀者如何様自分不勝手差支候儀ニ而茂故障申出間敷候事
- 一 市立之儀者古組問屋たり共京橋一店 江戸堀下之鼻一店 右両店之外増店不相成候 若自分商賣相休^也居外方へ借店致候節ハ一店^も不相成候事
- 一 古組問屋讓り替申出候ハ、年行司より仲間一統へ廻章ヲ以承知印形取之 御公儀様名前帳并御水帳 仲間式目帳共ニ張紙致讓り替可致候事
- 一 尤讓り替出来候ハ、両市場近辺ニ住居可申事
- 一 内分ニ而口錢を取合ケ間敷義を以問屋外之者江川魚取扱為致間敷候事
- 一 仲間申為合相背候問屋在之候ハ、取引差留 両市場へ始末相認 掛札可致候事
- 一 尤右様之節者仲買方年行司差加へ篤与示談之上可被計事
- 一 但不法致取引被差留問屋其節之問屋年行司へ詫出候上和融振舞為致候事
- 一 仲間不法致商賣相休^也居候問屋へ荷物着致候ハ、荷主方差支無之様惣代之者より取計残り之間屋ニ而賣捌荷方へ差支無之様取捌可致候 自然代之身分差支在之候ハ、年行司^も取計^も可致候事
- 一 他国荷物水場之儀者安治川筋者芦分橋限り 南者亀井橋限ニ而他所へ罷出間敷候 湊口^も出張荷物取扱候而者糶^也買ニ紛敷訳ニ可相成候間嚴重ニ可相心得事
- 一 問屋中^も他国へ罷出買入不相成候 荷主へ仕入銀致為買登候義者荷物潤沢ニ相成候ニ付随分心懸丹誠可致候事
- 一 自自分方へ參り候荷主たり共仲買ト荷主ト之直應對ヲ以直組為致候儀ハ勿論 問屋之者へ居口錢ヲ取合商内為致間敷候 右者市中商人問屋中^も賣渡十日目勘定 或者節季皆濟迄仕送り候方多分在之内 有福之仲買自俣之取計在之候而者外仲買之難渋ニ相成 聊買^もめ之筋ニ似寄候間 此段堅申合問屋中^も之外直組相談不相成候事
- 一 仲買方取引之義者古来^も十日目皆濟仕来候迄 天保九戌年相改入残銀節季皆濟与相定候尤皆濟節季後日数五日猶豫致 五日過候ハ、仲買年行司へ引合 其上行届キ不申節者取引差留両市場へ張紙差出可申候事

但問月在之節者間算用与唱へ前日^も日限達し置當日皆濟可致候事

一 不拂商人并二問屋外二而直賣買致候仲買在之候ハ、両市場へ張紙致 現銀たり共取引不相成候 自然仲買之内買次キ致候在之候ハ、同様市立差留可申事

一 問屋ヲ仕入銀貸渡在之候荷主変名致 外問屋へ荷物差送り候節者 俱ニ始末相尋合紛敷義者一統相談之上取捌可致候 若一己ニ取計候ハ、取引差留可申事

一 是迄仕入銀在之候荷主之外問屋ヲ新ニ仕入不相成 勿論新規仕入貸渡候節者一統ニ通達致 仲間仕入帳へ荷主名前相記置可申事

一分ケ荷物之義者相互立會魚見競荷主方不為ニ不相成様仲間相談之上直段取究可致事

尤直段之義ニ付而者荷主ヲ者糶^カ買^カ買^カ為致候様手段ヲ以種々申掛候共 仲間規定御主趣之旨等懇ニ申諭 決而糶^カ買^カ之筋ニ不相成様ニ可致候事

一 仕入銀無之荷主たり共是迄着来之間屋ニ而荷物取捌可致候 假令荷主方より外問屋へ差送候共元問屋へ差戻可申候 自然故障ケ間敷訳柄も在之候ハ、挨拶致元問屋之取捌相成候様取計可致 萬一元問屋不筋之義在之候ハ、仲間可及評儀事

一 仲間申合之儀召遣之者ニ至迄不作法無之様為致 若鹿略在之候節召遣り之不調法たり 共主人者不存等為仲間敷候事

一 當問屋者少人数之儀ニ付我意申募り候者在之候節者折々仲間混乱致不取締之基ニ付 一統ニ可抱要談之節者仲買年行司へ茂訳柄通達可致候 万一自俣申募一統不為ニ相成取計致候 仁於在之間屋仲買申合取引差留可一糶^カ買^カ賣^カ其餘荷主仲買等不為之儀不相成候事

但當地魚拂庭之節他所仕送り先々相断市中商人手支無之様可致候事

一 問屋濱先へ着船之分者外問屋ヲ直入不相成候事

一 仲買之内不拂之儀申出候ハ、取引高多少ニ不抱取引差留可申事

一 是非仕送り致度方在之候ハ、其問屋ヲ右差留申出候問屋へ濟方可致事

一 仲間申合忘脚無之様毎年三月集會致仲買年行司為立會別紙印形帳へ年々無懈怠銘々調印可致事

但仲買印形落印之分ハ講外ニ可致候事

右為申合之條之相互ニ急度相守可申 萬一違背於在之者當式目帳面規定通取計可致事 其時一言之申合無之為後鑑之銘々連判 依而如件

佐野屋 太右衛門 印
 鮎屋 庄三郎 印
 鮎屋 龜吉 印
 備前屋 久右衛門 印
 鮎屋 龜三郎 印
 大坂屋 安治郎
 代判次 兵衛 印
 鮎屋 長兵衛 仕似世
 借受候 二付代 印
 鮎屋 政吉 印

〔二〕「川魚問屋申合帳」

(表紙)
(白紙一丁)

一 從 御公儀様被為 仰渡候御法度之趣堅相守可申候 猶又御大切之就 御法事殺生之儀 御停止被為 仰付候節八市立相休可申事

一 市立之儀者多人數立會候儀ニ付 喧嘩口論無之様心得可申事

一 年行司老宛古組問屋之中より廻勤可致候 尚又仲間惣代与相唱新古無隔老宛廻勤致し 年行司差支之節手代り可致候事

一 仲間急談之節如何程差支在之候とも為繰合致出席可致候 尤自分御公用掛り或者重病之節者代人可差出候事

一 前日より日限相定在之候集會不參不相成候 自然不參又者代人差出し 於其席取究候儀者如何様ニ自分不勝手差支候儀ニ而も故障申出間鋪候事

一 市立之儀者古組問屋たり共京橋老店 江戸堀下之鼻老店 右両店之外増店不相成 若自分商賣相休居外方へ借店致し候節者老店より不相成候事

一 古組問屋譲り替申出候ハ、年行司より仲間一統廻章を以承知印形取之 御公儀様名前帳并御水帳 仲間式目帳共ニ張紙致し譲り替可致候事

附譲り替出来候ハ、両市場近辺ニ住居相定候事

一 内分ニ而口錢を取合ケ間鋪義を以問屋外之者へ川魚取扱為致間鋪候事

(疑合ケ間敷)

一 仲間申合相背候問屋在之候ハ、取引差留 両市場へ始末相認 掛札可致事

附右様之節者仲買方年行司差加篤与示談之上可取計事

但不法致し取引被差留候問屋其節之問屋年行司江詫出候上和融振舞致し候事

一 仲間致不法商賣相休居候問屋へ荷物着いたし候ハ、荷主方差支無之様惣代之者より取計残之問屋ニ而賣捌荷方江差支無之様取捌可致候 自然惣代之身分差支在之候ハ、年行司より可取計事

一 他国荷物水揚之儀者安治川筋ハ芦分橋限 南者亀井橋ニ而他所へ出間鋪候 湊口へ出張荷物取扱候而者糶^②買ニ紛敷訳ニ可相成候間嚴重ニ可被相心得事

一 問屋中より他国へ出買入不相成候 荷主江仕入銀致し為買登候義者荷物潤沢ニ相成候ニ付随分心掛丹誠可致事

一 自分方へ參候荷物たり共仲買与荷主与直應對を以直組為致候義者勿論 問屋之者へ居口錢を取合商内為致間鋪事 右者市中商人問屋中より賣渡十日目勘定 或者節季皆濟迄仕送候方多分在之候内 有福之仲買自俣之取計有之候而者外仲買之難渋ニ相成 聊買[×]之筋ニ似寄候間 此段堅申合問屋中之外直組相談不相成候事

一 仲買方取引之儀者古来より十日目皆濟仕来候処 天保九戊戌年相改入残銀節季皆濟与相定候 尤皆濟節季後日数五日猶豫致し 五日過候ハ、仲買年行司江引合 其上行届不申候ハ、取引差留 両市場へ張紙差出し可申事

但閏月在之節者閏算用与唱前日より日限通達置當日皆濟為致候事

一 不拂商人并問屋外ニ而直買致し候仲買在之候ハ、両市場へ張紙致し 現銀たり共取引不相

成候 自然仲買之内買次キ致し候者有之候ハ、同様市立差留可申事

一 問屋ヲ仕入銀貸渡在之候荷主変名いたし 外問屋へ荷物差送り候節ハ 俱ニ始末相尋合紛敷義者一統相談之上取捌可致候 若一己ニ取計候ハ、取引差留可申事

一 是迄仕入銀有之候荷主ニ外問屋より新ニ仕入不相成 勿論新規仕入貸渡候節ハ一統ニ通達いたし 仲間仕入帳へ荷主名前相記置可申事

一 分荷物之義者相互ニ立會魚見競荷主方不為ニ不相成様仲間相談之上直段取究可申事

附直段之義ニ付而ハ荷主ヲハ糶^カ買^カ買^カ為^カ致候様手段を以種々^カ与可申掛候得共 仲間之規定御趣意之旨等懇ニ申諭 決し而糶^カ買^カ買^カ之筋ニ不相成様ニ可致候事

一 仕入銀無之荷主たり共是迄仕来之間屋ニ而荷物取捌可致候 假令荷主方外問屋へ差送候共元問屋へ差戻可申候 自然故障ケ間鋪訳柄も在之候ハ、精々挨拶いたし元問屋之取捌ニ相成候様取計可致候 萬一元問屋ニ不筋之儀有之候ハ、仲間可及評儀事

一 仲間申合之儀召遣之者ニ至迄不作法無之様為致 若僂略有之節召遣之不調法たり共主人ハ不存与為中間鋪事

一 當問屋者不人数之儀ニ付我意申募申候仁在之候節ハ折々仲間及混乱不取締之基ニ付一統ニ可拘要談之節者仲買中年行司へも訳柄通達可致候 萬一自俣申募一統不為ニ相成候取計致し候仁有之ニおゐてハ問屋仲買申合取引差留可申事

一 糶^カ買^カ買^カ賣^カ其餘荷主并仲買等不為之義不相成候事

但當地魚拂底之節他所仕送先へ相断市中商人手支無之様可致候事

一 問屋濱先へ着船之分者外問屋ヲ直入不相成候事

一 仲買之内不拂之儀申出候ハ、取引高多少ニ不拘取引差留可申事

但是非仕送致し度方在之候ハ、其問屋ヲ右差留申出候問屋へ濟方可致事

一 仲間申合忘脚無之様毎年三月集會致し 仲買年行司為立會別紙印形帳へ年々無懈怠銘々調印可致事

但仲買中印形落印之分ハ講外に可致候事

一 年行司相定候上者 同人ヲ取締之義被申出候節者何事ニ不寄無違背承知可致候事 自然年行司役柄を以我意被申募候ハ、外問屋中ノ年番へ申出 問屋中集評之上年行司非分ニ候ハ、退役為致候事

但年行司不法ニ落退役ニ相成候問屋ハ任先例ニ取計可致候事

一 問屋取引差留候通達之節 仲買之内右問屋ニ難遁義理合在之等与彼是自俣之故障申立候仲買者右問屋同様両市場へ掛札致し 取引差留候事

一 仕入無之荷主たり共仲間中銘々定客帳ニ相記候後外問屋へ如何様ニ申参候共 元問屋へ不届取引被致候ハ、右荷物口錢元問屋へ相渡 年行司へ託一札差入可申候事

一 仲間へ可抱要談者仲買年行司差加へ熟談可申儀者勿論之事 自分一己之思惑在之節者本人直々年番へ示談可致候 自分勝手之儀を仲買年行司を以被掛合而者自然不行届之節 問屋仲買不和合ニ相成 却而不取締之基ニ候間 此儀ハ其時之可仕宜敷事

但年番へ故障等在之節ハ年行司へ相談可致候事

一 問屋濱先へ定着之客船へ外問屋ヲ乗込 假令下人たり共相場高下之噂等決而不相成 客衆

へ疑惑為起而者仲間及混乱取締ニ差障候間 心得違無之様可致候事

一問屋中京積被致候節ハ年行司も添切手取之其上 船役所之御切手申請積登り可申事

一他國魚京都へ取引相究在之客船ハ年番も荷物相改京積致し賣値銀仲間箱納ニ相成候 若

右客船国元買場之内外方も買入積登り候共一己立取捌不相成候 右者京為登荷主其問屋

与馴合変名いたし候様相聞前書ニ在之含商内ニ似寄候而者仲間及惑乱候間 心得違無之様

可致候事

一荷主へ致仕入候節者其度毎年番へ申出 一統へ通達之上仲間仕入帳へ相記可申義者勿論
若自分一己ニ仕入致候共仲間仕入帳ニ相記無之分ハ仕入荷主ニ不相立候事

一分ケ荷物者勿論時々之相場通達承知之上内證ニ而増仕切不相成候 若右様露頭ニおよひ候
問屋取引差留 年行司年番へ詫出候上右増銀高之通仲間箱元へ差出可申事

一新規荷主入着之節者国郡所名前相糺一統へ致通達 差支之有無為問合之上取引可致候事

一不拂いたし両市場取引差留候商人 若仕似せ相讓候節ハ右讓請候商人も差留候問屋中之
濟方為致可申義ハ勿論 不実意之致方ニ而他江讓候ハ、假令残銀無之問屋たり共取引不
相成候事

但仮名致し現銀たり共篤与相調へ本文之仕義ニ候ハ、同様取引不相成事

一前ケ條之外餘時為申合之儀者通達帳を以承知印形取之 右承知調印在之儀相背候ハ、式目

面為申合通取計可致候事

佐太 鮎屋龜 鮎屋
備久 大交代 備久

右申合之條と相互ニ急度相守可申候 萬一違背於在之ハ當式目面規定通取計可致事 其時一
言申分無之 為後鑑之銘と連判 仍而如件

嘉永七甲寅年

(貼紙②) 鮎屋 長兵衛 庄蔵

(貼紙①) 鮎屋きぬ 代判嘉兵衛

(貼紙下) 鮎屋兆兵衛

(貼紙③) 佐野屋 太右衛門

(貼紙②) 佐野屋寅之助 代判太右衛門

(貼紙①) 鮎屋庄右衛門

(貼紙③) 鮎屋 庄蔵

(貼紙②) 鮎屋庄三郎 代判卯兵衛

(貼紙下) 鮎屋庄三郎

(貼紙②) 備前屋米治郎

(貼紙①) 備前屋久右衛門

(貼紙下) 備前屋久右衛門

(貼紙②) 備前屋米治郎

(貼紙①) 大坂屋與八 代判治兵衛

(貼紙下) 大坂屋安治郎

(貼紙②) 鮎屋長兵衛株かり主

(貼紙①) 鮎屋きぬ代判嘉兵衛株かり主

(貼紙下) 鮎屋兆兵衛仕似せ借受

鮎屋政吉

鮎屋政吉

鮎屋政吉

鮎屋 龜 吉

鮎屋 龜 三郎

〔三〕「市場定」

(表表紙)「市場定」(カ)

- 一 從 御公儀様被為仰渡候御法度之趣急度相守り可申事
- 一 御制札場致猥り間鋪候事
- 一 於御江戸 御代々御法事被為 成候節殺生御停止被為仰付候砌生類賣買堅ク止可申候事
- 一 御法度之第一名々組合吟味仕急度相守り可申候事

右之條々堅ク相守り可申候事

御奉行様

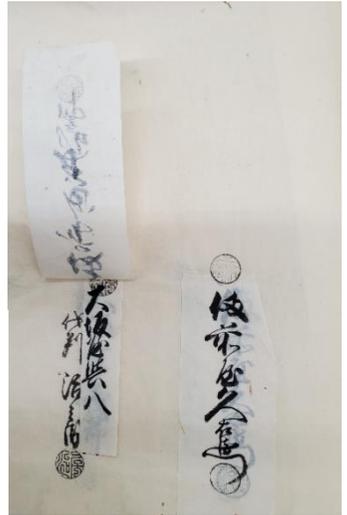
問屋定

一 從御公儀様 先年被為仰付候川魚毒魚之儀問屋制札之通私共組内子吟味仕賣買致間鋪候
 若以仕欲ラ賣買仕脇々相知レ候者組中申合名々組内江入ル間鋪候猶亦組札之儀取上可申
 候依之組中連判仍如件

寛保元年辛酉五月

木屋太郎兵衛 ㊥
 鮎屋八右衛門 ㊥
 組頭 鳥屋伊右衛門 ㊥

(白紙一丁)
(裏表紙)



▲▼16 丁表・貼紙例



▲16 丁裏・貼紙例





組札表之圖

今川六四

高サ五寸



組頭札裏之圖

高サ六寸

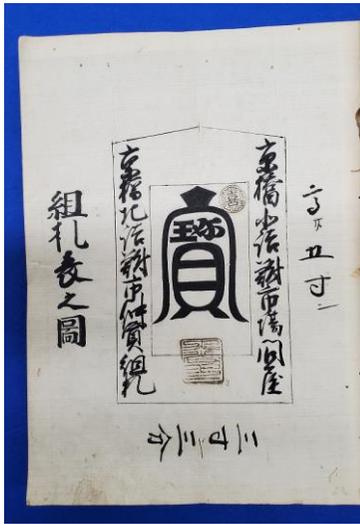
今川六四



組頭札表之圖

高サ六寸

今川六四



組札表之圖

今川六四

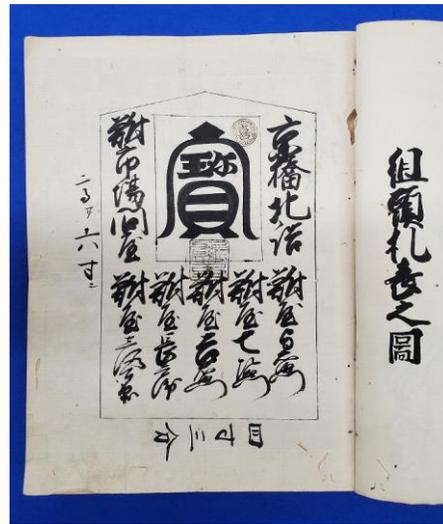
高サ五寸



組頭札裏之圖

今川六四

高サ六寸



組頭札表之圖

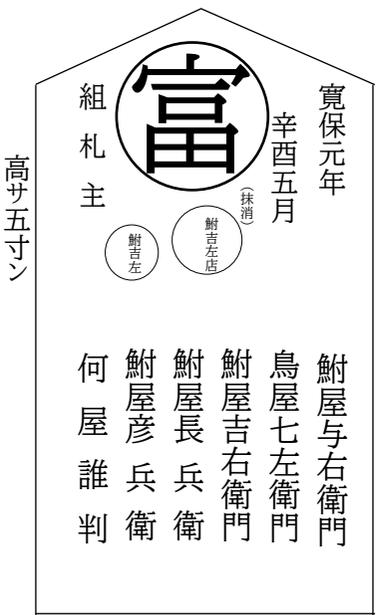
今川六四

高サ六寸

京橋北詰鮎市場問屋中

鮎屋宇兵衛
山城屋太兵衛

組札裏之圖



覺

一右組札之儀ハ慶長三^戊年市場來歴書物 卷元和元^乙卯年帳面之表ヲ以人々改右組札古來之通相渡シ候然所組内之人々自今以後ニ至其身上不勝手亦ハ立身ニ付右商賣相止メ候砌多門江讓リ組入札代其組札讓リ候仁へ可取之候最其親類之讓リハ各別ニ候然共仲買之衆中組入顔見世祝儀其仁ン相應之勤可有之候猶亦讓リ渡シ讓リ得候節ハ問屋帳面名代ヲ切替右組札裏張り紙仕替可被申候其節問屋中江ハ不及付届ケニ候右組札之儀ハ永々之儀ニ候得者致猥二分失不存候依之右書付ヲ以申渡シ候以上
寬保元年辛酉五月

京橋北詰鮎市場問屋五軒代

相生東町 鮎屋吉左衛門^印

仲買中

口上之覺

一右之通委細ニ致承知候然所右古代趣帳面御引合被成此度御改被下候之段我々共家々勝手世間之外間忝奉存候依之組中申合自今以後無滯相勤可申候以上
寬保元年辛酉五月

山城屋太兵衛^印

鮎屋宇兵衛^印

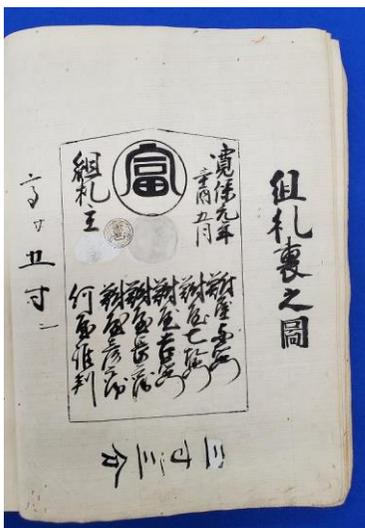
組頭 鳥屋伊右衛門^印

鮎屋八右衛門^印

木屋太郎兵衛^印

京橋北詰鮎市場問屋中

西六月右五拾人講掛錢月々式拾文ツ、ふなや八右衛門月々ニ寄セ右帳面委細ニ八右衛門方ニ有之候事



小頭 柴屋太郎兵衛[㊟]

印
網吉左
網吉左店

人数合五拾人

一 正月九月右之人数問屋一列ニ寄合興行可被致候事

一 此度御願之通被為 仰付候鯉鮒鰻三品之儀漁師之手前ニ買込他國江遣シ候事

於 御公儀様ニ御願請候問屋五軒之妨ケニ候得者堅ク申渡シ候此上右無聞入左様之族有之候者組札問屋帳面切替可申候京橋市場ニ而買入他國江遣シ候段各別ニ候事

一 於問屋中買中賣掛算用相立テ不申候人ニ江買次候儀度ニ申渡シ候得共猥ニ相見ヘ候所此度堅ク申渡シ候向後左様之人ニ有之候者商賣致間鋪候事

一 市場賣買之場所ニおゐて喧嘩口論致商賣之妨間鋪候勿論漁師組内之人ニ其外末ニ至迄其場之致手込ニあやまち致間鋪候縦外之者たり共組内之人ニ罷出其ろん之引分無事ト商賣可致候其出入専ラニして我心さしの荷物不得買候得ハ其日之賣買不調ヘ可致候堅其心得可被申事

右之通相違無之候後ニ至問屋衆中心得違之儀茂有之間鋪候得共我等致加判置候依之印形仍如件

寛保元年辛酉五月

惣仲買中
鮒屋吉左衛門[㊟]

右之條ニ急度相守リ可被申候

備前嶋 鳥屋伊右衛門[㊟] 組頭 73

同 鮒屋八右衛門[㊟] 組頭

同 山城屋太兵衛[㊟] 退役 組頭

同 鮒屋宇兵衛[㊟] 組頭

網嶋 木屋太郎兵衛[㊟] 組頭

備前嶋 寅屋「庄兵衛[㊟]」

同 寅屋安兵衛[㊟]

同 同 源次郎[㊟]

同 総屋「半兵衛[㊟]」

同 山城屋孫兵衛[㊟]

同 太左衛門[㊟]

同 三九郎[㊟]

同 やすノ半兵衛[㊟]

同 富士四郎切替 ふじ伊右衛門[㊟]

同 堺屋六兵衛[㊟]

同 今里屋新助[㊟]

同 鮒屋傳右衛門[㊟]

備前嶋 七分口錢札 山ノ権兵衛へ切替 的り八郎兵衛[㊟]

(貼紙①)

総屋権兵衛病死相續難成二付名代
同所河内屋勘兵衛譲り請但水上帳面 亀印

(貼紙下)(旧名を切除後貼紙・記入)「同

同 とりや伊兵衛印
同 午房屋いわ印
同 鮒屋喜兵衛印
同 馬ノ播磨屋勘兵衛印
同 総屋権兵衛印

(貼紙②)

河内屋勘兵衛病死二付商賣相續難成
右名代鮒屋嘉兵衛譲り請笑西實曆三年五月

鮒屋嘉兵衛印

同 山城屋多兵衛名
代委細奥二有之

鮒屋長治郎印

丹波屋与兵衛事

同 鮒屋徳兵衛印

道頓堀 鯉屋甚左衛門印

同 鯉屋吉兵衛印

新地 鮒屋仁兵衛印

(貼紙下)「富田屋治兵衛 店舖印」

(貼紙)

相生西 鮒屋太兵衛印

宝曆九年卯十一月十五日〆七分切替

同 鮒屋与治兵衛印

同 鮒屋茂兵衛印

同 米屋市兵衛印

同東 七分口銭札鮒屋
市兵衛へ切替立 仁和寺屋半右衛門印

同 鮒屋平兵衛印

同 大黒屋 (旧名を切除後貼紙)

同 井筒屋 (旧名を切除後貼紙)

勘七

平野町三丁目 八郎兵衛印

いとノ忠兵衛印

なにノ市兵衛

彦吉右衛門印

こほうや半兵衛印

弥兵衛町 大和屋九兵衛印

(貼紙下)「道修町三丁目 尼屋九兵衛印」

(貼紙①)

備前嶋町葉屋天治事
尼九寛保元西譲り請
薬や九兵衛寛延二巳十月 九兵衛印

(貼紙②)

右八葉屋九兵衛事天治七分口銭定メ之印札鮒屋伊兵衛對談之上ニ而
譲り請ル然八間取かわせ證文切替無之以上 宝曆九年卯ノ十二月八日

尼崎町式丁目

鮒屋伊兵衛印

備前嶋町 ゑなミヤ喜兵衛印

相生東町 鮒屋作兵衛印

伊勢屋山ノ権兵衛印

七分組入證文之事

一川魚類荷物口錢前々九分口錢ニ而買請候所五軒問屋衆中江七分口錢ニ而御賣可被下候
由右願段々仕候得共御得心無之迷惑至極奉存候所ニ此度御差圖ヲ以七分之組合へ御入被
下候段忝奉存候依之毎朝買請候荷物代銀無滞相濟シ可申候若滞申儀御座候者前々之通り
九分ノ組内へ御入被下毎日常買請候荷物九分御掛御取可被下候其時一言之申分無御座候
為後日印形仍而如件

寛保元年辛酉五月

- 鮎屋佐次兵衛[㊤]
- 鮎屋八郎兵衛[㊤]
- 大黒屋三郎兵衛[㊤]
- 鮎屋徳兵衛[㊤]
- 鮎屋平兵衛[㊤]
- 備中屋吉右衛門[㊤]
- こほうや半兵衛[㊤]
- 大和屋九兵衛[㊤]
- 鮎屋吉左衛門殿
- 小頭 柴屋太郎兵衛[㊤]
- 鮎市場問屋衆中
- 鮎屋与右衛門
- 鮎屋七左衛門
- 鮎屋吉右衛門
- 鮎屋長兵衛
- (貼紙) 鮎屋彦兵衛

口上覚

一古来之帳面之通私儀小頭相勤可申候由被仰付委細承知仕候然處我々共世間之外聞忝奉存
候依之間屋中用々之儀御座候節罷出無滞相勤可申候 以上

寛保元年辛酉五月廿三日

- 柴屋太郎兵衛[㊤]
- 鮎屋吉左衛門殿

口上之覚

一右組入之儀御願申入レ候處ニ御聞届被成被下五拾人組内へ御差加則組札今日被下候之段
外聞方々忝奉存候然處私義弥兵衛町海魚商賣近所ニ住宅仕候得者右々ニ場於濱中ニ此度
從 御公儀様 被為仰付候鯉鮎鰻三品後々至致賣買候儀有之候ハ、早速注進可申候依之
口上以書ヲ如此御座候 以上

寛保元年辛酉五月廿五日

- 弥兵衛町大和屋九兵衛[㊤]
- 鮎屋吉左衛門殿

一札

一錢五貫四百五拾文也

右者川魚賣掛残り錢慥ニ預リ申處実正明白也右之錢来ル十二月卅日迄ニ急度返済可申候為後日預リ證文仍而如件

寛保元年辛酉五月廿五日

仁和寺屋半右衛門

問屋組中

覺

一右組札之分ハ川魚賣掛錢算用相済不申市場江不出候者有之候ハ、御穿鑿被成内上引残其仁ン相應之月切證文之被致市場江御出シ可被成候右之分歩あつかいニ而御済シ被成間鋪候九分之衆中ハ各別之儀候問や心得違後々至御座有間鋪候得共為心得之如此ニ候 以上

寛保元年辛酉五月

鮒屋吉左衛門[㊦]

問屋衆中

一札之事

一錢貳貫三百七拾八文也

右者川魚買掛リ錢慥ニ預リ申所実正明白也右之錢ハ三月卅日迄一節季ニ貳百六拾四文ツ、無滞相立可申候為後日證文仍如件

寛保元年辛酉六月

上本町式丁目播磨屋平兵衛

問屋組中

一札之事

一錢五貫三拾五文也

右者川魚買掛リ錢慥ニ預リ申所実正明白也右之錢七月節季ニ壹貫文九月ニ壹貫五百文十二月ニ貳貫五百三拾五文無滞急度相立可申候為後日證文仍如件

寛保元年辛酉六月

(貼紙)相生西町鳥屋

(貼紙下)「備前嶋鳥屋」

伊兵衛

鮒屋七左衛門殿

同 吉左衛門殿

同 彦兵衛殿

廻り帖之事

一市場江初テ出候下之商人口錢前々相定之通口錢九分何茂九分今取二分ハ組札五拾人之内へ可取之候則其錢問屋江ハ七分ニ而相渡可被申候今日問や衆中へ申渡シ候明廿日之朝々其問やニ有あふ組内之人々何レニ不限二分とり可申候問やニハ其組内其場之顔付水上帳ニ印可付候事

一市場ニおいて喧嘩口論先立テ申渡シ候處ニ組内見たりニ相見得候儀不届ニ候得者向後左様之人々有之候ハ、組札組頭衆中へ取上可被申候事

寛保元年辛酉六月十九日

京橋市場問屋仲間

相生東鮒屋吉左衛門

店舖印

組頭五人衆中

組札四拾五人衆中

組入證文之事

一慶長三^戌年京橋御免之市場來歴之表テ本仲買五拾人元和元^{乙卯}年帳面之面ト同五^{己未}年町御奉行 御改之人ト組札相渡シ有之候處ニ後ト至右組札共ニ退轉ニおよひ候段此度被改候ニ付右五拾人之組内へ御差加被下候由段ト願入候得共五月廿五日之刻限茂過キ將又京橋ヲ限り他所へ不出候由被仰可致様茂無御座迷惑至極存候處何トそ右組入仕度存念ニ御座候ニ付尼屋与兵衛殿同三郎兵衛ヲ以テ右願請申入候得者御聞届被下今日組入則組札御渡シ被下私存念ト申世間之外聞忝奉存候右御書付之趣慥ニ承知仕候此上滞儀御座候ハ、右組札御取上被成帳面名代御切替被下候共一言之申分無御座候依之右願請一札如件

寛保元年辛酉七月十二日

道修町三丁目 尼屋九兵衛^印

鮒屋吉左衛門殿

右五拾人構入まくら掛銀三両

外二月次掛銭式拾文但シ鮒屋ハ右衛門請取但シ去ル六月

尼屋九兵衛

覚

一雜喉場川魚賣買之儀ニ付去ル四月十八日ニ 御公儀様江 御願差上候得者被為聞召上同五月廿一日鯉鮒鰻右三品京橋問屋共ニ被為仰付同廿二日雜喉場表はま中ハ不及申所ト共右三品賣買御停止被為仰付被下當所問屋共難有奉存候處其後至所トニ而新規之市ヲ立ルニ組其市ヲ取持 御公儀様之 仰ヲ不恐大切之儀ヲ被為セ之段不屈至處就中其類人ニ致方人今日之喝命渡世之至處問屋ニて氣たふ族可申様茂無之之段組子組親ノ中立ヲうしな心事急度右之類今日之賣買此節ヲ限商賣致問鋪候然處組内之人ト其外賣子共未トニ至迄左様之族組ミ買次仕送り候事脇々相知レ候ハ、其日ヲ限り向後賣買止リ可申候依之右書付ヲ以申渡シ候 以上

寛保元年辛酉八月

京橋北詰鮒問屋五間

印

相生東町鮒屋吉左衛門

店舖印

京橋北詰鮒市場惣仲買中

覚

一右之條ト慥ニ致承知候然處ニ向後左様ノ族有之候共一切川魚類買次仕送り致問鋪候後ト至左様之儀有之脇々相知レ候ハ、本人同事ニ賣買御止リ被成候共一言之申分無御座候依之組内古仲買中印形仍如件

寛保元年辛酉八月

(貼紙①) 総屋権兵衛病死相続難成名代譲り渡シ委細口有之 河内屋亀官兵衛印
(貼紙②) 河内屋勘兵衛病死二付名代譲り渡シ委細口ニ有之 狩納屋嘉兵衛印

(貼紙下)「かせや半兵衛印」

とらや庄兵衛

とらや安兵衛印

とらや源次郎印

備前嶋町

山城屋孫兵衛印

(貼紙) 鮎屋久兵衛印

(貼紙下)「いもや太左衛門印」

ふなや三九郎印

ふなや半ヤサ兵衛

(貼紙) 鮎屋印 (貼紙下)「印」

(貼紙下)「とりや伊右衛門印」

(貼紙)

丑ノ七月二日ふし伊右衛門七分口添札名代切替ル養子分故ふしノ四郎兵衛ト号ス

ふじ四郎兵衛印

さかいや六兵衛印

鮎屋忠兵衛事

今里屋新助印

備前嶋町

ふなや傳右衛門印

(貼紙) 鮎屋甚兵衛印

(貼紙下)「ふなや八郎兵衛印」

備中屋吉右衛門印

こほうや半兵衛印

こほうやいわ印

ふなや喜兵衛印

はりまや勘兵衛印

備前嶋町

ふなや徳兵衛印

相生西町

とんたや次兵衛

ふなや与治兵衛

ふなや茂兵衛印

米屋市兵衛印

とりや伊兵衛印

相生東町

ふなや平兵衛印

備前寫町

(貼紙) ふなや市兵衛印

(貼紙下)「仁和寺屋半右衛門印」

平野町三丁目 勘七

道修町三丁目 勘七

弥兵衛町 勘七

道嶋新地 勘七

ふなや仁兵衛印

相生東丁

(貼紙) 柴屋カ九兵衛印

(貼紙下)「ふなや忠兵衛印」

右八井戸忠兵衛組札讓渡シ候間帳面へ記ス

道頓堀

鯉屋甚左衛門印

こいや吉兵衛印

右八山城屋太兵衛名代譲り請候間此所ニ記ス

備前嶋丁 ふなや長治郎印

鮎屋八右衛門印

山城屋太兵衛印
退役

組頭 鮎屋宇兵衛印

鳥屋伊右衛門印

木屋太郎兵衛印

しはや太郎兵衛印

寛保元年辛酉八月

京橋北詰鮎市場問屋中

相生東町 鮎屋吉左衛門殿

一札之事

一於所々新規之市場相立候ニ付去ル五月廿一日問屋五間其外仲買五拾人一列ニ差添リ御願御公儀様江 差上候得者被為聞召上右三品京橋へ被為仰付難有奉存右市場相續致候處ニ組内右三人之衆中心得違之儀ニ付去ル七月廿五日組札御取上被成問屋中御立腹被成候ニ付我々共へ御挨拶段々申入候處御聞届被下則組合印札我々共へ申請候然上八所々新規之市場出来候共其場所へ罷出入間鋪候依之我々共へ請合印形仍如件

寛保元年辛酉八月廿三日

鮎屋八右衛門印

鳥屋伊右衛門印

鮎屋宇兵衛印

木や太郎兵衛印

山城屋太兵衛印

かせや半兵衛

同 権兵衛

寅屋庄兵衛

権右衛門事

鮎屋吉左衛門殿

右三人之衆中組頭へ一札之趣

一此度組合心得違之儀ニ付去ル七月廿五日ニ組合印札御取戻シ被成市場表テ問屋衆中々延引被下我々共迷惑至極奉存組頭中御挨拶ヲ以テ右印札御請戻シ被下明朝々市場へ罷可出之段忝奉存候向後御差圖ヲ以無滞相勤可申候依之印形仍而如件

寛保元年辛酉八月廿三日

かせや半兵衛

同 権兵衛

寅屋喜兵衛

組頭衆中

右者三人之衆中一札ヲ以組頭へ出し市場へ被出候

口上之覺

一 從御公儀様 被為仰付候御法之趣急度相守り可申候
 一去ル五月廿五日古来之人数五拾人子孫御改被成候砌り私儀右人数之内へ御差加へ被下候之儀段と願申入候處ニ右之人数子孫相調候由被仰下残念至極ニ奉存脇を致承知候得者右五拾人之内明キ印札御座候由承り右札へ申請度奉存朝暮組頭衆中へたのミ入右之由段と組頭中ヲ以申入候得者御聞届被下則右印札今日被下候之段私存念世間之外聞忝奉存候就中雜喉場右三品此度
 御公儀様 より京橋市場之外賣買御停止被為仰付被下私共末とニ迄難有奉存候然處問屋中前とる市場定之趣委細ニ承知仕無滞相勤可申候為後日之口上書ヲ以如此ニ御座候以上

寛保元年辛酉八月廿五日

右五拾人構まくら掛銀子三両外二月次ニ掛錢式拾文鮒屋八右衛門請取但シ去ル六月

備前嶋町 へなみや喜兵衛[㊦]

野江善事

鮒屋吉左衛門殿

口上之覺

一 從御公儀様 被為仰付候御法度之趣急度相守り可申候
 一去ル五月廿五日古来五拾人之人数御改之砌り右之人数ニ御差加へ被下候之儀段と願申入候處古来之子孫御穿鑿之上人数相調候由御申ニ付右之次第残念至極ニ存暮シ居候處ニ此度右人数之内井筒屋吉右衛門大黒屋三郎兵衛鮒屋佐次兵衛右三人於網嶋ニ新規之市取持被致候ニ付組合印札御取戻シ被成京橋市場川魚賣買御延引候由致承知右人数之替りへ御差加へ被下候段毎度願申入候得者御聞届被下則今日右組合印札共古来之人数之内へ御差加へ被下向後私世間之外聞忝次第第二奉存候然上八問屋前とる相定之趣無滞相勤可申候將又於所とニ新規之市相立候事聞付ケ次第早速問屋中へ可申出候就中雜喉場右三品從御公儀様 京橋市場之外御停止被為下私共末とニ迄難有奉存候然處問屋中を雜喉場表テハ不申及所とニ而鯉鮒賣買之儀御改之趣毎日人数御出し候段致承知候私儀右人数ニ差添り其場へ罷越右三品之儀あらため可申候為後日ノ委細ニ口上書ヲ以如此ニ御座候以上

寛保元年辛酉九月

右五拾人構まくら掛銀子三両外二月次掛錢式拾文鮒屋八右衛門請取但シ去ル六月

ふなや作兵衛[㊦]

長作事

京橋北詰市場問屋中

同東町 鮒屋吉左衛門殿

(紙縫りによる綴じ部分)「宝曆十一年巳ノ十月札改

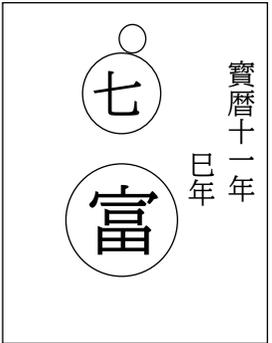
鮒屋 宇兵衛

鳥屋伊右衛門

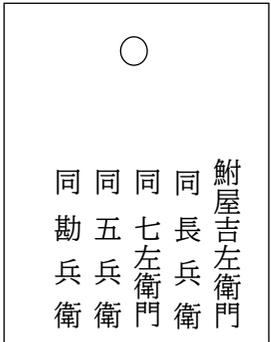
大黒屋三郎兵衛

鮒屋 六兵衛

(半丁白紙)
(何丁か削除)
(半丁白紙)



宝曆十一年巳十月札改



鮒屋宇兵衛事

五郎兵衛印

とりや伊右衛門印

鮒屋六兵衛印

鮒屋忠兵衛印

鮒屋久兵衛印

鮒屋市郎兵衛印

鮒屋甚兵衛印

山権事

鮒屋長次郎印

かせや半兵衛印

ふじ四郎兵衛印

ひこ吉右衛門印

柴屋九兵衛印

鯉屋長兵衛印

鯉屋吉兵衛印

鮒屋嘉兵衛印

鮒屋伊兵衛印

鮒屋茂兵衛印

寅屋安兵衛印

鮒屋太兵衛印

鮒屋三九郎印

鮒屋作兵衛印

大黒屋三郎兵衛印

野江喜兵衛

鮒屋喜兵衛印

(裏表紙)「問屋中(九)」